

Vol. 40, September, 2014

AI 通信

Atami association for International interchange

発行：熱海国際交流協会

熱海市中央町1番1号

熱海市教育委員会生涯学習課内

(第2庁舎2階)

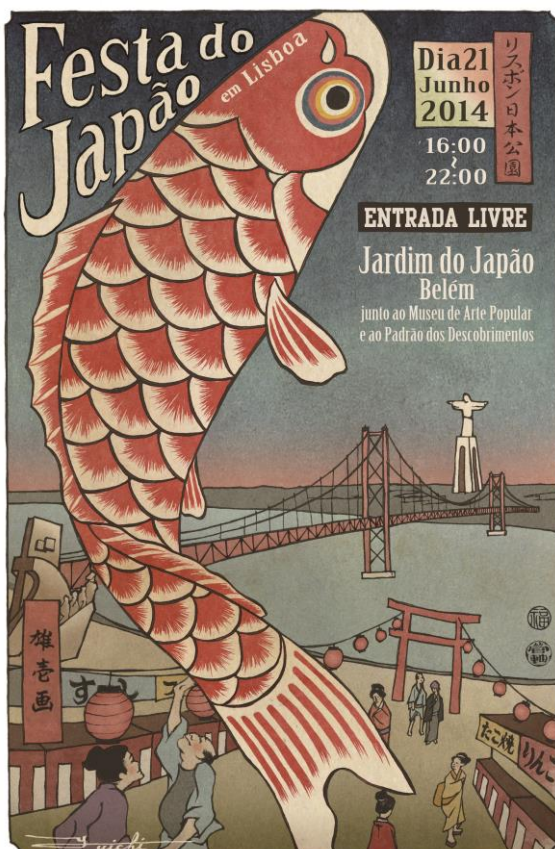
TEL (0557) 86-6233

FAX (0557) 86-6606

E-mail kokusai@atami-ai.jp

URL <http://atami-ai.jp>

リスボン日本祭り Festa do Japão 2014.6.21



ポルトガルの人たちと
一緒に御神輿を担いで、
大観衆の中を練り歩き！



中央は東博史駐ポルトガル日本国大使！

リスボン日本祭り & カスカイス市へお神輿寄贈

2014/6/20～25

1日目 熱海→リスボン

朝7時半、熱海よりバスで羽田へ向かう。ルフトハンザ航空にて、ポルトガルへの直行便がないためミュンヘンで乗り継ぎ17時間掛けて現地時間21時40分にリスボン到着。その後、ホテルへ直行。

2日目 日本祭りフェスタ・ド・ジャポンに参加

在ポルトガル日本大使公邸に、御神輿が2ヶ月半かけて到着していました。保管されていた御神輿は夕方からのフェスタ・ド・ジャポンに参加するため、勢輿會の皆様によって組み立てられトラックで会場へ。私たち女性は着物、男性は法被姿で会場へ。会場では着物に珍しいのか写真攻めに遭いました。有志の方からご好意でいただいた法被20枚を、ポルトガルの人たちに着てもらい、一緒に御神輿を担いでもらいました。齊藤市長、高橋議長が舞台上上がり挨拶と御神輿の説明をし、オープニングセレモニーを終えた東（あずま）駐ポルトガル日本国大使が御神輿の様子を見にいらして、自ら先頭に立って担いでくださり、大観衆の中を御神輿が練り歩き、大変な反響でした。



女性に着物、男性は法被姿！



ポルトガルの人たちと一緒に！

3日目 カスカイス市へ御神輿寄贈

御神輿はトラックで運び、私たちはバスでカスカイスに向かいました。途中検問があり、1時間程掛かると言われましたが、15分程度でOKになりガイドさんに、こんなに早く終わるのは珍しいと言われました。カスカイス市役所に到着後、カスカイス市のカレイラス市長がヨガ大会の会場にいるため、そちらに来よう言われ、私たちもヨガ大会へ参加することになりました。午後、市役所に戻り御神輿の贈呈式が行われ、昼食は3時過ぎに。昨年夏に研修で来熟したカスカイス市職員も来てくれ、懐かしく再会することができ、私たちの旅の目的も果たすことができました。夜は、東大使が夕食に招待して下さり、美味しい和食をいただきました。大使は本当に気さくな方で、楽しい夕食会になりました。



カスカイス市へ御神輿寄贈



在ポルトガル日本国大使公邸にて夕食会

4日目 ポルトガル観光

すべての親善行事が終わり、今日は1日観光です。ロカ岬に立ち、地球が円球であることを実感させられました。シントラ・ペーナ宮殿は珍しくカラフルな色使いのお城で印象に残りました。

5日目 リスボン→熱海

帰国の朝、フランス管制塔のストライキで帰国が危ぶまれましたが、1時間程度の遅れで帰国の途に。フランクフルト経由で、無事羽田に到着し一路熱海へ。皆様、本当にお疲れ様でした。

(事業スタッフ 小西蝶子)

ポルトガルの話&カルヴァーリョ・ワークショップ

2014/6/29 起雲閣ギャラリー

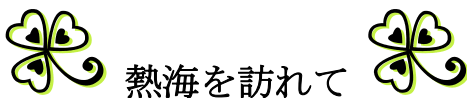
ポルトガル人画家カルヴァーリョさんのワークショップ(絵画教室)を開催。

当日は、ポルトガル大使館文化部の木下さんにカルヴァーリョさんの通訳をしていただきました。また、日本ポルトガル協会の根本さんより、ポルトガルのお菓子を頂戴し参加した皆さんで美味しくいただきました。参加者 19 名。



私が熱海を初めて訪れたとき、MOA美術館のすばらしさに感銘を受けました。町中を散歩することで、この街が坂道の多いことに気づきました。2度目の来熱は、熱海のカスカイス訪問団に会った後でしたので、私は来たる絵画展に向けてより一層集中することができ、熱海を訪れては季節の変化やまだ発見したことのない事を調べました。大切なものでも、目の前からなくなるとほとんど忘れ去ってしまいます。ですから私は細かいところまで注意を払いました。私は木陰の多い裏庭、偶然見つけた誰も目に止めないような色鮮やかな街角も好きですが、熱海のすばらしい景観、至る所で見られる洗練された建築物、美しいお店にも感銘しました。私の最後の作品では、サンデッキの小さなタイルを描くことで大きな趣のある旅を表現することに熱心に取り組みました。最初、この街全体に魅力を感じましたが、最後には小さな顕微鏡で見るような一面に魅了されました。

私の取り組みは単に絵を描くことだけではなく、熱海で経験した時間、人々、場所を描くことで、文化や知識を共有することです。私は、絵を描く技術のためのだけのワークショップでなく、ポルトガルの文化を分かち合うワークショップを計画したいと思いました。自然や観察したものを描くことはとても大切です。起雲閣のワークショップで生まれた作品は、いろいろな方法で自然や観察したものを表現していて大変興味深かったです。(滞在中に訪れた)泉幼稚園では子どもたちの生き生きとした表現を共に楽しむことができました。(ジョアン カルヴァーリョ)



熱海を訪れて

カルヴァーリョさんが日本で絵画展を最初に開いたのが2008年、大分県臼杵市でのことです。九州旅行中にポルトガルの歴史の跡が残る臼杵市を知り、ここで展覧会を開きたい、と大使館に連絡があったのです。それから、ほぼ毎年、ポルトガルにゆかりのある町を訪れては人びとと交流を持ち、その土地にまつわるものや人を題材にして個展を開いてきました。今回の熱海の展覧会はカルヴァーリョさんの日本での7回目の展覧会になります。このような、草の根の形での交流は、大使館だけでやろうと思ってもご本人のイニシアチブがなければ、なかなかできるものではありません。また、それを快く受けてくださる熱海市をはじめ各自治体にも感謝しています。



熱海から起雲閣までの道すがら、ジャカランダの木々に感激しました。またワークショップに参加してくださったみなさまの熱心なご様子もうれしく、遠い国であるポルトガルを身近に感じてくださっていることを実感しました。カルヴァーリョさんがつなげてくださる日本とポルトガルの交流の絆がいつそう深まっていきますようお願いしています。(ポルトガル大使館文化部 木下真穂)



Bom dia! 日本ポルトガル協会です

「日本ポルトガル協会」というと敷居の高い団体のように聞こえるかもしれませんが、実はポルトガルが好き、とか、ポルトガルに旅行したのがきっかけで入ったという会員さんが多い、同好会のような集まりです。協会あてには「ポルトガルワインでおいしい銘柄は?」「どこで買うことができますか?」というような電話がかかってくることもあります。ポルトガルというと「大航海時代」という歴史をつい思い浮かべますが、実はワインなしではポルトガルが語れないほど、ポルトガルの人々の生活にワイン (VINHO) は欠かせません。地方によってさまざまなワインがありますが、手頃な値段で気軽に飲めるものがあります。また、ポートワインやマデイラワインもポルトガルのワインです。機会があればぜひ一度味わって頂きたいと思います。



今日、ご用意したパステル・デ・ナタ (Pastel de Nata) は、しばらく前に日本でエッグタルトとして流行しましたが、ポルトガルではどこのカフェに行っても売っている馴染みのおやつです。元は修道院で作られたというお菓子は、さくさくとしたパイ生地にカスタードクリームが入った上品なお菓子です。中国のマカオがポルトガル植民地であったことからアジアに渡り、エッグタルトとして日本で流行しましたが、本家のお菓子の方がずっとおいしいことがお分かりになると思います。ポルトガルについて知りたい方、ワインやお菓子について知りたい方はどうぞ日本ポルトガル協会へお気軽にご連絡ください。(一般社団法人 日本ポルトガル協会 事務局 根本美恵子)

起雲閣企画展示室にて
実施された『ジョアン・カ
ルヴァーリョのギャラリ
ートーク』に国際理解講
座の一環として参加。



ペルー家庭料理教室 2014/2/22



今年の2月、国際理解講座「ペルー家庭料理教室」で講師をしました。メニューは、ペルー風チキン&ライス「アロス・コン・ポジョ」とジャガイモにチーズクリームソースをかけた「パパ・ア・ラ・ワンカイナ」、とうもろこし粉（コーンスターチ）を使ったクッキーに練乳を煮詰めたソースを挟んだデザートです。ペルーではジャガイモは毎日のように食べるし、唐辛子は料理によっていろいろな種類を使いわけています。

私は熱海に来て23年になります。私はペルー人として、外国人として、故郷から遠い日本に住んでいます。

文化はまったく違いますが、自分の国の料理に興味を持ってくれる人々がいてとても嬉しかったです。熱海でペルーの家庭料理を教えることができる日が来るとは思いませんでした。熱海の人たちがペルー料理を好きになってくれるとうれしいです。(西岡ルイサ)

防災教室を終えて思うこと 2014/3/12

あの3.11から3年が過ぎました。日々に追われ、ややもすれば記憶が薄らぐ中、外国籍市民のための防災教室を行いました。危機管理課職員のスクリーンを使った解説に、改めて大災害への心構えの甘さを反省しました。特に印象深かったのは、津波の映像でした。何度も何度も押し寄せる津波が、全てを容赦なくのみ込んでいくのを改めて目にし、絶句。私にできることは涙を流すことだけでした。日本に住む外国人にとって、あの震災は、どれほどの不安や恐怖になっているのでしょうか？私が海外で暮らし、言葉もままならない状況での体験と思うと、想像を超えてとても表現できません。でも、何かできることを防災教室の中から見出してみました。一つは、避難経路を熟知しておくこと！居住地のみならず、自分の行動エリアについて、海側・山側の車と徒歩の両方の避難路を知っておく必要があります。次に災害時の情報確保ですが、電信電波が途切れることを大前提にすると、究極は人の肉声のつながりに尽きます。誰とでも笑顔で声が掛けられる自分を整えておくことこそ絆づくりの原点だと思います。最後に、自分のことしかできない私、せめてできる限り、ボランティアに励もうと思いました。今後の防災教室の参加をお待ちしております。『今できることを』を合言葉に！（事業スタッフ 小澤裕子）

防災講座に参加してとても勉強になりました。実際に防災グッズを使って、被災地の状況を説明していただいて、他人事ではないと意識を変えました。自分の住んでいる地域の具体的な避難経路・危険な箇所を確認でき、いざという時より正確な判断ができると思います。防災講座の重要性も実感しました。熱海に住んでいる外国人は、ホテル勤めやパート勤めが多くなかなか参加できないと思うので、外国人が多く勤める企業と連携して出張防災講座などを行うのも外国人の防災意識を高める方法だと思います。最後に参加者を代表して、熱海国際交流協会の皆さんにこの機会を提供していただいてとても感謝しております。～ 参加者 山田藍さん ～



ルイサのレシピ Arroz con pollo (アロス コン ポジョ)



（左下がアロス コン ポジョ）

材料(6人前)

米	2+1/2 カップ	水	500cc
鶏肉(唐揚げ用カット)	18 切れ	玉ねぎ	1/2 個
パプリカ (黄)	1 個	人参	1 本
ほうれん草	1/2 把	パプリカ (赤)	1/2 個
グリーンピース・インゲンなど	1/2 袋	塩・コショウ	適量
油	適量	お好みでクミン	

- ① お米をといで水を切っておく
 - ② 鶏肉に下味を塩・コショウ(お好みでクミン)でつける
 - ③ 鶏肉を油で炒める
 - ④ ほうれん草・玉ねぎ・パプリカを、水少々(分量外)とともにミキサーにかける
 - ⑤ ④を③のナベにいれ、煮る
 - ⑥ 水分量が減ったら、洗った米・グリーンピース(またはインゲン)・刻んだ人参と赤パプリカ、水をナベに入れ煮る
 - ⑦ 米に火が通ったら完成
- (骨付きの鶏肉を使う場合には、ナベから取りだしてオーブンで焼き目をつけて盛りつけると、ちょっと豪華な感じになります)

平成 26 年度理事会・総会 2014/5/14

熱海市役所第1庁舎4階会議室にて平成26年度理事会・総会を開催し、平成26年度の事業・決算報告と平成26年度の事業計画・予算が承認されました。ご多忙中にもかかわらず、約50名の方にご出席賜り、誠にありがとうございました。



開会の挨拶をする竹内会長

総会終了後、竹内会長が講話を行いました。会長は、外交官のご子息で、アメリカでお生まれになりました。戦後は、高松宮様より命を受けGHQの通訳をされており、戦後の話を中心にお話をいただきました。「ダグラス・マッカーサーが日本に来たとき、わずかな部下とただの一機だけで、前を守る飛行機もなければ、後ろを付いてきた飛行機も無く、彼自身が演出を行ったと言われている。タラップをゆったりと降りてくる写真が有名だが、ピストルも何も持たず降りてきたのも彼の考えで、それはその後の政策にも出ている。このときタラップを1回で降りたのではなく、2・3回やり直している。その後、東京湾上での日本の無条件降伏を交わしたが、彼も軍人上がりなので優しいようで厳しい。そういうところがあちこちに出てきます。」等々ダグラス・マッカーサーについて色々なお話をいただきました。お話は、日本の外交のこと、戦後の教育制度のことなど多岐に渡りました。また「言葉ができると交流の場が広がる。皆さんもオリンピックに向けて活躍してほしい。」と話され、講話の最後は、会長のモットーで締め括られました“Dream No Little Dream!”。貴重なお話を伺いました。

団体会員紹介 熱海ガイドクラブ様

前日までのうだるような暑さが、ほんの少し和らいだ7月28日。心地良い風の吹き抜ける会社の前庭で昼下りのインタビュー。公私共にお忙しい代表の渡邊伸夫様にお話を伺いました。

熱海ガイドクラブは平成4年に創立され、ボランティア精神に基づいて国際親善を図る事をモットーに活動を続けていらっしゃいます。現在会員数は24名、主に英語で、なかには中国語、韓国語ができる方もいらっしゃいます。皆さんいろいろな経歴と高いレベルの語学力をお持ちの方々です。毎月1回の定例会が行なわれますが、それはかなり楽しいものの様です。今まで外国人観光客のガイド、イベント参加・交流等、さまざまな活動をしていらっしゃいましたが、より積極的に会員が日本文化を深く学び、発信していきたいと考えていらっしゃいます。その取り組みとして2月に網代のわかめ祭り、4月は筍堀り、7月のこがし祭りに参加。8月は懐石料理と夏の茶席のしつらい体験などがあげられます。梅園、芸妓見番、来宮神社の外国語の資料もできあがっています。初川沿いのラグゼンシア熱海静蓮閣に展示してある清水町の山車の外国語解説は熱海ガイドクラブが作ったものだそうです。

2020年のオリンピックまであと6年、今の小学生たちも大人になります。東京から新幹線で50分のこの熱海。“Guide Communication”おもてなしの心をもって、熱海に来られる外国のお客様たちを避けることなく胸を張って、あいさつの言葉だけでも話せるようにしましょう！と熱く語って下さいました。

熱心に目的をもって活動するという事だけはぶれずに、あとはゆとりをもって大らかに運営されている団体です。熱海・外国人という共通のキーワードのもと、私たちAIも連携して活動していけたら素晴らしいと思いました。ありがとうございました。(事業スタッフ 小林春子)



熱海ガイドクラブ 渡邊代表に
お話を伺いました。

サンバのルーツはアフリカに

2014/7/28・29 小学生国際理解講座 「せかいを知らう！～パカパカパーカッション～」

先日、熱海国際交流協会の「小学生国際理解講座」の講師として、小学生の皆さんと交流を持つ機会をいただきました。

現在のように、電話、郵便等のなかった時代、打楽器は大切な通信手段でした。スネアドラムやシンバル、マリンバなど打楽器のルーツはアフリカにあります。そんなアフリカで生まれた打楽器が南アメリカに渡った背景や、南アメリカで使われている言語、スペイン語にも触れながら、子どもたちと一緒にサンバを創りました。

熱海や網代のお子さんは、小さいときから和太鼓に親しんでいるためか、とてもリズム感がよく、積極的に理解が早いようです。印象的だったのは、手で鳴らすより、マレット（棒の先に毛糸玉が付いている）で鳴らす事に興味を持つお子さんが多かったことです。

また網代では、A I スタッフの小澤さんのサンバについてのお話もありました。一説では、サンバのステップの起源は狩りの時に獲物に気づかれぬように草むらを進む歩き方だったという話を聞いた後、みんなでサンバのステップを体験。小澤さんのお手本を見ながら真剣にステップを踏んでいました。

最後はそれぞれ好きな楽器を選んでもらい、サンバの曲を演奏しました。子どもたちは、金物系のシンバル、アゴゴベル、トライアングルが好きなようです。同じ4分の4拍子のリズムでも、楽器が違くと鳴り方が全く異なるので、いろいろな種類の楽器によるアンサンブルを楽しんでくれたようです。

スタッフの皆さんの迅速、かつ丁寧なご協力のお蔭で、私も、子どもたちも講座を楽しめました。有難うございました。（講師 成瀬紀子）



今年は、熱海市生涯学習課で行った「公民館寺子屋」にて、出前講座をいたしました。ふじのくに子ども芸術大学の講座「ふじのくに子どもパーカッション」で講師をされていた成瀬紀子先生をお迎えして、珍しい打楽器を実際に演奏し、南米の音楽を体験してもらいました。

・7月28日 11:00～11:50 中央公民館

「せかいを知らう！～パカパカパーカッション～」23名参加

・7月29日 10:00～11:50 網代公民館

「せかいを知らう！～スペイン語とパカパカパーカッション～」12名参加

市内の外国籍住民の数は 360人です

2014. 7. 31 現在

1	中国	99 人
2	韓国・北朝鮮	89 人
3	フィリピン	62 人
4	ブラジル	29 人
5	アメリカ合衆国	15 人
6	台湾	13 人
7	ペルー	10 人
8	タイ	6 人
9	オーストラリア	5 人
10	カナダ	4 人
人数がそれ以下の国の計		28 人

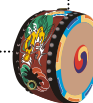


ソウル旅行珍道中（2014 年 6 月 19 日～ 3 泊 4 日の旅）

韓国語教室の講師、高先生が「皆さんとソウルツアーを計画しましょう」と、昨年来から構想を練っていただき、ようやく 3 泊 4 日の旅行が実現しました。私は 42 年ぶりの韓国旅行に少々興奮気味でした。先生を含め総勢 9 名の訪問でした。私は事情があり航空機、ホテルは別行動にしました。皆さんと合流して夕食をする予定で、計画では「集合場所のホテルは、地下鉄で二駅ですから歩いて簡単にいけますよ」と、自信たっぷりに返事をしたのですが、当日の時間の都合で徒歩ではなく地下鉄に向かおうと駅に向かいました。その瞬間から私の行動が狂い始めました。駅には三路線と、たくさんの出入り口がありましたが、正しいルートを選び、駅員に尋ね「三つ目の을지로 1가（ウルジロイルガ）で降りなさい」と言われ降りて地上に出たのですが、ホテルの位置がさっぱりわかりません。手当たり次第に若い方を捕まえ道を尋ねたのですが、皆に首を振られてしまいました。迷っている間に、ホテルと真反対へ行ってしまったのだろうか。タクシーを捕まえて運転手に尋ねても「わからない」の返事。やっと 4 台目のタクシーの運転手が理解してくれました。一安心、安堵を感じました。ホテルまでは 3,000 ウオン（約 300 円）の距離でした。なんと、歩いて行くことができるほど近い距離だったのです。待ち疲れた方々はすでに食事を終えて次の目的地へ向かわなくてはなりませんでした。数人の方は私が食事を終えるまで付き合ってくださいました。

道に迷った時、韓国の方はとても親切に対応してくれました。また、日本以上に街の案内板も行き届いています。

“Rome was not built in a day”ということわざがあるように、言語の勉強も積み重ねが必須であることを痛感しました。韓国語教室で学んで、ハングル語の文字が少しだけでも判読できたのが旅の幾らかの手助けになったと思います。日本と韓国、両国が何時でも歓迎ムードであり続けて欲しいです。（韓国語教室 家合勝美）



「アフリカへ毛布をおくる運動」についてご報告

- ・ A I 毛布募集期間：平成 26 年 4 月 7 日（月）～ 5 月 20 日（火）
- ・ 収集毛布：34 枚 ・ 海外輸送費（寄付金）：22,000 円

アフリカへ毛布をおくる運動推進委員会を通じてアフリカ諸国の人々へ届けられます。ご協力ありがとうございました。

使わなくなった「眼鏡」「楽器（リコーダーやピヤニカなど）」
も集めておりますのでご協力をお願いいたします。

※眼鏡…集めたものは誓欣院へ届け、スリランカへと送ります。

※楽器…ペルーの小学校へ送ります。

毛布のご協力、
ありがとうございました！

